

特定課題Ⅶ 外来種の監視と防除

【実施概要】

1 背景

生態系や生物多様性を脅かす要因の一つでもある外来種は、農林水産業や生活環境等へ影響を及ぼすこともある。

丹沢大山地域では、都市部から分布域が拡大しているアライグマが丹沢山麓の人家周辺等でも目撃され、鳥類のソウシチョウやガビチョウが山中の森林で目撃されるなど、外来種の侵入による生態系への影響が懸念されている。

2 施策の方向性

第4期自然再生計画では、外来種の侵入の監視と未然侵入防止のため、各種事業や調査で設置されている自動撮影カメラによる情報などを活用するとともに、アライグマについては、生息分布域の拡大を防止する取組を進める。

また第3期自然再生計画に引き続き、丹沢産の緑化種子生産・苗木の供給を行うとともに、第3期自然再生計画までに実施した林道法面緑化試験施工地でのモニタリングや他の工法での緑化モニタリングを実施する。

3 第4期丹沢大山自然再生計画の主な取組と成果

(1) 外来種の監視と進入未然防止

- ・ 宮ヶ瀬湖におけるブラックバス等特定外来生物について、ダム管理者（国）が防除及び再生産抑制を実施した。その効果を確認するため、県が外来魚の生息状況調査を行い、減少傾向にあることを確認した。
- ・ 自然環境保全センターにおいて、アメリカザリガニなどの外来種の影響等に関する講座等を実施するとともに、6月から9月の土日祝日にアメリカザリガニ釣りを実施することで、外来種の影響や問題点などについて学ぶ機会を提供した。

(2) 丹沢産緑化苗木の育成及び生物多様性に配慮した緑化手法の検討

- ・ 丹沢産広葉樹苗木を生産して、各種事業に供給した。
- ・ 林道法面において、外来牧草による緑化を行わず、現地表層土壌を用いる工法と飛来種子捕捉マットを活用した工法、種子を入れない厚層客土吹付工を施工した。追跡調査から、自生種の侵入・定着により緑化が図られていることを確認できた。

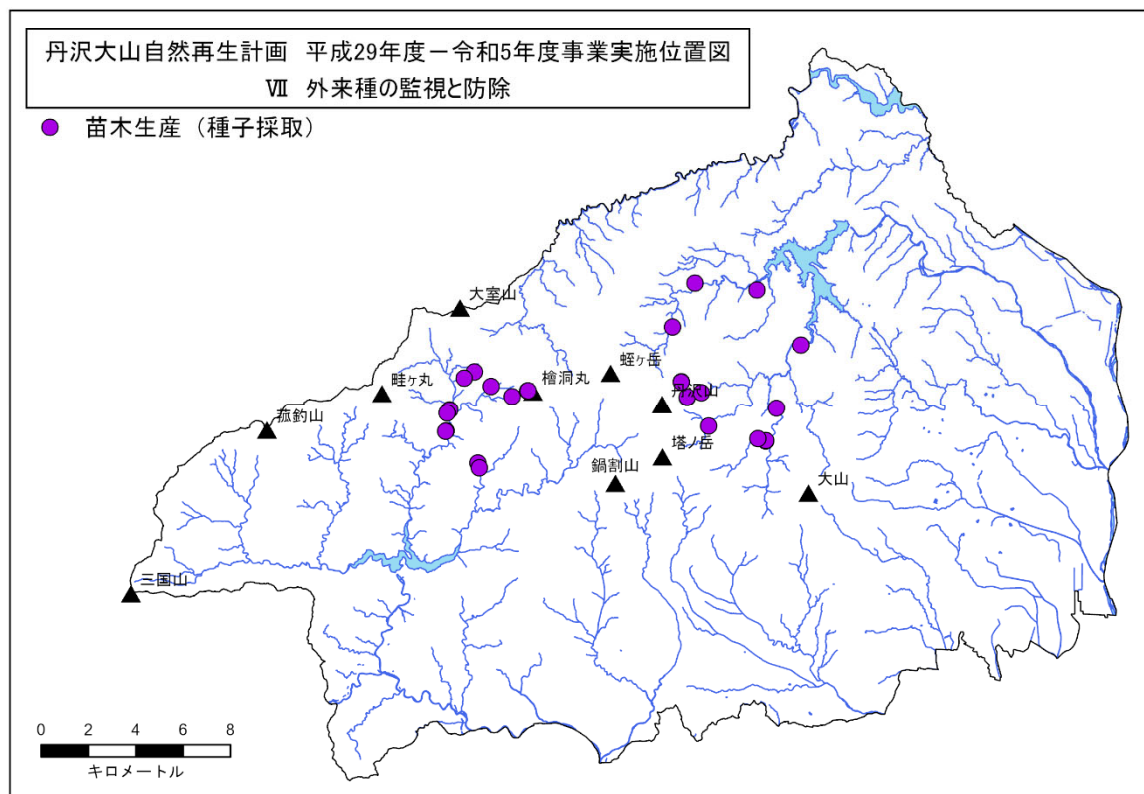


図7-1 事業実施位置図（特定課題Ⅶ 外来生物の監視と防除）

4 第4期計画の課題

- ・ アライグマの防除と監視を継続するとともに、クリハラリスについても目撃情報の収集に努め、監視する必要がある。その他の外来種についても情報収集の手法を検討する必要がある。
- ・ 県の事業や団体等の取組で用いる丹沢産広葉樹苗木の需要量に対して、安定的に供給できる体制が必要である。
- ・ 生物多様性に配慮した緑化については、引き続き追跡調査して、より確実に成果の得られる工法を検討する。

5 主要施策ごとの事業実施状況

(1) 外来種の監視と侵入未然防止

① アライグマの情報収集と監視

【事業内容】

丹沢山地へのアライグマの侵入状況について、各種調査における自動撮影カメラによる生息状況調査や登山者へのアンケート調査等を通して監視を行うとともに、生息分布域の拡大を防ぐため、市町村等と連携して侵入初期の段階から早期の捕獲に取り組む。

<実施状況>

神奈川県アライグマ防除実施計画に基づき、市町村に寄せられた捕獲・目撃情報を収集するとともに、各種調査で設置した自動撮影カメラの記録からアライグマの情報を収集した。その

結果、令和2年度に1回、奥山域で、令和5年度に丹沢山地の2か所（清川村札掛と山北町丹沢湖畔）で1回ずつアライグマが確認された。

また、かながわ鳥獣被害対策支援センターにおいて、県営施設やJAに対しアライグマ専用わなの貸出しを行った。また、地域主体の捕獲に対し、技術支援を行った。

②その他外来生物の情報収集と監視

【事業内容】

アライグマ以外の外来生物についても、各種調査における自動撮影カメラによる侵入・生息状況を把握するとともに、専門家の知見を踏まえながら情報収集の方法を検討する。また、マルバフジバカマ等近年分布を広げている外来植物の分布状況の把握では、自然環境保全センターのパークレンジャー等職員や自然公園指導員、市民科学者に協力を仰ぐ。

＜実施状況＞

特定外来生物であるクリハラリスについて、市町村等から目撃情報を収集するとともに、別事業で設置された自動撮影カメラの記録から生息状況を確認した。その結果、丹沢大山地域ではクリハラリスの撮影はなかった。



写真7-1 クリハラリス捕獲わな（大和市内）

③自然観察プログラムを活用した外来種問題啓発

【事業内容】

自然環境保全センター自然観察園において、アメリカザリガニ釣りを通して外来種の生態や問題点などを学ぶ取組を進める。

＜実施状況＞

アメリカザリガニなどの外来種の影響等に関する講座等を実施するとともに、6月から9月の土日祝日にアメリカザリガニ釣りを実施し、外来種の影響や問題点などについて学ぶ機会を提供した。また、アメリカザリガニの生体の展示や外来種問題についてのモニター展示を行った。〔R5ザリガニ釣り参加人数 580人〕



写真7-2 ザリガニバスターズ(釣り)受付



写真7-3 捕獲されたアメリカザリガニ

(2) 外来植物を用いない緑化手法の検討

① 丹沢産の地域性苗木の育成

【事業内容】

丹沢産の緑化種子生産・苗木の育成と供給の取組を継続し、広葉樹母樹の選抜、母樹林の整備を実施する。

<実施状況>

水源の森林づくり事業等で使用する広葉樹苗木の安定的な供給を図るため、母樹候補木等から種子を採取・精選し、発芽率、成長量を調査するとともに、苗木供給可能量の推計を行い、これらの種子を県内苗木生産者に供給し、丹沢産の種子による苗木生産を継続した。

これらの結果、第4期計画期間中で1年度あたり約30種、20,000本前後の広葉樹苗木の生産が継続された。

多種多様な広葉樹の苗を生産しているが、需要が一部の樹種に偏っているため、県内産の広葉樹について広く普及を図る必要がある。



写真7-4 種子採取の様子



写真7-5 採取したミヤマヤシブシ

②生物多様性に向けた緑化手法の試行

【事業内容】

森林土木事業において試験施工した、現地表層土壌を活用した緑化手法や牧草等の種子を導入しない緑化手法のモニタリング結果を参考としながら、生物多様性保全に向けた緑化工法について引き続き検討、試行する。

＜実施状況＞

遅速緑化の試験施工を行った法面の施工地において追跡調査を行ったところ、在来木本等の侵入・定着により法面緑化が図られていることが確認された。



写真7-6 周辺植生からの自然侵入による法面緑化